



# わが東中

校訓…共に羽ばたく

能代市立能代東中学校  
校報第5号  
令和4年6月7日  
文責：平澤秀樹

## 旧崇徳小グラウンドに生徒の歓声

### 第33回 運動会 テーマ「大志」

5月29日(日) 第33回能代東中運動会を、旧崇徳小グラウンドで開催しました。令和2年度に新型コロナウイルス感染症対策として、来場者の密を避けるために旧崇徳小で行いましたが、今年度は「生徒の活動を地域で」という点も併せ開催しました。

これに先立って行われた、PTAの環境整備作業には、保護者23名、生徒68名の参加を得て、トラック内の除草作業を行いました。また、地域貢献活動として、全校生徒が旧崇徳小の校舎内の清掃を行いました。



デッドヒート (色別リレー)

当日は熱戦が繰り広げられましたが、行進パフォーマンスと選手リレーで1位をとった黄組が、徒競走、8の字跳びで得点を重ねた桃組をわずかに上回り優勝となりました。勝ち負けはスポーツの特性ですが「真剣にやる楽しさ」を観戦している我々も味わわせてもらった運動会でした。

友達の走りや競技を観戦している生徒の表情もよく、真剣に応援している様子も和やかでした。また、練習期間が短く心配された「東中ソーラン」でしたが、全校生徒が一丸となって演技している姿に、参観している家族の方々も楽しんでいました。



応援もデッドヒート

いただきました。毎年のご協力に感謝申し上げます。美しい花が長く見られるよう、水やりや草取りをしつかりと行いたいと思います。



### ◇避難訓練Ⅰ(地震想定)◇

5月23日(月)に避難訓練を行いました。5月26日の日本海中部地震の日に合わせて行っている訓練ですが、シェイクアウト訓練の後に、一次避難、そして檜山川が逆流したとの想定で、高台に二次避難という訓練を毎年行っております。

日本海中部地震はもちろん、東日本大震災の記憶もあいまいな今の生徒達にとって、これらの教訓を語り継いでいくことや、こうした災害への対応の知識を身に付けることの大切さを感じます。



### ◇花壇植栽作業◇

今年も前庭の花壇に花を植える作業が行われました。花壇作業に先だって、2年生の鶴木さんのご家族の方に花壇の耕起をしていた

東中・二中・東雲中合同チーム 優勝!

【2回戦】

由利本荘合同	0	0	0	0
能代合同	8	15	X	23

【準決勝】

秋田東中	0	0	0	0
能代合同	10	0	5X	15

【決勝】

琴丘中	0	0	0	0	0	0	0	0
能代合同	2	0	0	1	0	0	X	3

2回戦、先発の藤原伊莉愛さんは、3回コールドゲームながら相手打線を9人で片付ける快投。パーフェクトゲーム(参考)を達成。

準決勝、先発の藤原伊莉愛さん、今度も3回コールドゲームながら相手打線を10人で片付け、ノーヒットノーラン(参考)を達成。

決勝戦。伊莉愛さんは、1番、ファーストで出場。3打数2安打1打点と、勝利に大きく貢献しました。



◇保健講話会のお知らせ◇

テーマ:メディアと健康 ~メディアに支

配されない生活を目指して~

講師:佐々木久長 先生

(秋田大学大学院医学系看護学講座准教授)

日時:6月24日(金)

14:40~15:30

場所:能代東中学校 体育館

※本学区の児童・生徒の生活習慣について、共に考える機会としましょう。

◇夏季総体激励会◇

日時:6月16日(木)

14:40~15:10

場所:能代東中学校 体育館

※各部活動の意気込みをご覧ください。

※ ご来校の際は、マスクの着用、検温、手指消毒等ウィルス対策にご協力をお願いします。



◇「いじめ防止」について◇  
 いじめ防止集会が開かれた。全校で「いじめ」を考える集会である。生徒会自作の動画を見て『縦割り班』で意見を出し合い、最後には「思いやりの心」「傍観者にならない」「勇気をもつ」などのキーワードが生徒から出てきた。  
 集会を観ていて「生徒達もなかなか考えているのだなあ」という感想をもったが、同時に「いじめは、どの学校でも、どの先生の下でも、どの組でも、いつでも起こりうるのだ」という感を強くした。状況の個別的契機を原因とした場合、なぜその時いじめ現象が起こったかの説明にはならない。いじめの張本人たちの個人的な動機としては「おもしろいから」というのが正直なところである。そして、それがエスカレートするのは、社会心理学で言うところの「傍観者」心理に他ならない。この点で、本校の生徒達はまともな考え方をしているのだ、と少し安心した。  
 昭和40年代「子ども時代を過した私は」、「かんけり」「宝踏み」などの遊びをした。これらの遊びの特徴は、子どもたちが自発的に集団を作るが(年の違う子どもたち)、まともにはルースであり「いじめ防止」の許容、敗北の責任が誰かに集中することがない、また、同じ町内に住むという一種の帰属感をもつ、などの点が挙げられる。  
 「かんけり」など「鬼」のいる遊びの場合はスケープゴートがあらかじめ合意の上で決められている。一見、集団による「いじめ」の構造と同じであるが、これらの遊びと「いじめ」の本質的な違いが、「いじめ防止」のコントになりはしないかと思うのである。  
 ある瞬間に学校中(異学年集団・職員も)異質の他者同士が、一つの目標に向かって取り組める集団性(帰属性)をもった学校では、こつとした問題は起こりにくいのではないかと考える。様々な試みをしている。